

岩手県立図書館所蔵の『往来物』について

Investigation report on "OURAIMONO" documents of Iwate Prefectural library possession

郡 千寿子*

Chizuko KOHRI*

要 旨

岩手県立図書館所蔵の往来物資料について調査し、分類整理を試みた。その結果、往来物資料の総数は70本であり、そのなかに近世期の版本は6本であることが判明した。青森の弘前市立図書館所蔵の往来物資料について、以前に調査した結果と比べると、総数も版本も少ないといえるが、岩手県立図書館所蔵の近世期の版本のなかには、従来、報告されていなかった貴重な文献が含まれていることが明らかとなった。今回の調査では、地域における資料の偏在状況と、資料の分類整理を通してみえてきた教育内容についての一面を提示した。基礎的な研究段階であるが、それぞれの地域における教育環境や文化的背景の共通点や相違性など、新たな視点からの研究の可能性を示唆したものである。

キーワード：往来物、出版文化、庶民教育、言語生活

1. 研究の方向性について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究¹⁾をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のもので出版されている。

従来の往来物研究は、教育史資料という側面が大きかったが、人間文化形成に果たした役割や社会に与えた影響など、多くの未開拓課題が残されており、新たな視点からの活用が期待されている。

日本社会の近代化に往来物資料が、大きく関わっていたことが予想されるのであるが、文献資料の基礎的研究をはじめとして、その発掘も未だ十分にはすすんでいない現状にある。そうしたことをふまえて、北東北地域の往来物資料についての検討を通して、近世期の庶民生活の一面や教育的背景について考えてみたいと思う。

本稿では、岩手県立図書館所蔵の往来物調査から、こういった種類の文献が所在しているのかについて紹介し、分類と整理²⁾を試みた。今後は、北東北圏の

往来物資料についての偏在状況や出版事情の分析などから、文化の流入や定着についても考えていきたい。

2. 岩手県立図書館所蔵資料の調査について

これに先立ち、すでに弘前市立図書館所蔵の「往来物」調査を行なっている。原則として、写本は除き、版本に限って、成立時期や出版元を確認した。調査対象の資料は、総数197本であった。それらを目的別と出版地別に分類整理して、弘前の所蔵資料の特徴について考察検討したのである。

写本を除いたのには意味がある。この研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本はもちろん、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。すべてを詳細に検討するよりも、大要を明らかにするために調査資料をより限定して考察検討する方法をとった。

基本的には、弘前で調査手法を踏襲し、岩手県立

* 弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

図書館所蔵の「往来物」を調査することにし、分類整理を試みたいと思う。北東北圏の中における、青森県弘前と岩手盛岡の所蔵資料の所在状況を比較することで、それぞれの地域特性の一面を提示できるのではないだろうか。

3. 岩手県立図書館所蔵の「往来物」について

3-1 近世期版本について

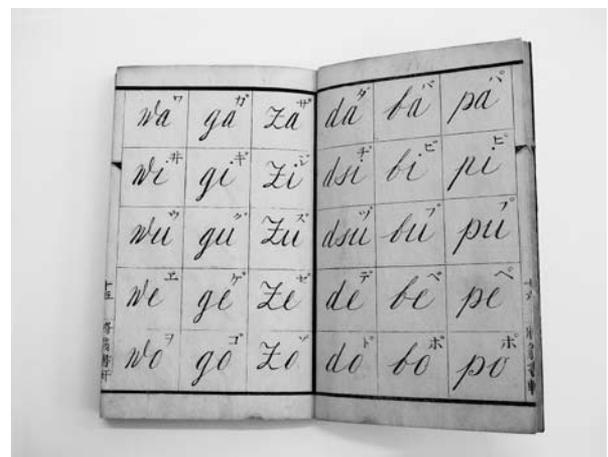
岩手県立図書館所蔵の「往来物」は、総数70本。近代明治期以降に出版されたものと写本を除くと、近世期の版本は6本であった。ただし、『英学七ツいろは』という文献資料は、同じ書名で同じ形態のものが2冊所蔵されている。これらの2本を調査検討してみると、内容的に若干の相違があることがわかったため、版本の数としては同じものとして扱わず、6本とした。

総数70本で近世期の版本が6本という調査結果については、以前に調査した弘前市立図書館の所蔵状況と比較すると、意外に少ないように思われる。弘前市立図書館所蔵の版本は、総数197本であり、また近世期の版本もかなり多く、江戸での出版物のほか、大坂や京都で出版された文献資料も存在し、様々な種類の往来物資料を確認することができた。そうした弘前における調査結果と比べると、岩手県立図書館の往来物資料の所蔵は、決して多いとはいえないであろう。

しかし、近代明治期の版本や写本（原稿用紙に写された比較的新しいものも含む）の存在は多く確認でき、残存している版本資料が少ないだけで、この地方においてもかなりの往来物が使用されていたらしいことは推測できると思われる。

そして、少ないながらも、これらの往来物資料は、従来、知られていないものであり、また注目すべき特徴を備えた資料であることが判明した。岩手県立図書館所蔵の近世期の版本に焦点を絞って、簡単な書誌を画像とともに紹介しておくことにする。

書名：英学七ツいろは
 内題：英学捷徑七ツ以呂波
 著者：阿部友之進
 形状：縦 18.0cm 横 12.5cm
 出版年：慶應3年（1967）
 出版地：東京日本橋



この『英学七ツいろは』は、『往来物解題辞典 解題編』³⁾に記載がない、貴重な英語関係の往来物であり、語彙科往来に分類できるものである。『往来物解題辞典 図版編』⁴⁾には、小泉氏所蔵の『英学七ツいろは』が画像掲載されているが、珍しい資料のひとつであるといえよう。岩手県立図書館には、同じ書名の文献が2本所蔵されているが、内容は若干相違している。

内容は、英語の大文字、小文字、筆記体、そして日本語のカタカナ、ひらかな、漢字を対応させたものである。たとえば「I i i (筆記体) イ い 伊 膽」

「RO ro ro (筆記体) ロ ろ 呂 路」「HA ha ha (筆記体) ハ は 波 葉」等というの順に英語表記を日本語表記と対応させて表示している。また「I 1 one ワン 一」「II 2 two トウ 二」「III 3 three スリイ 三」といった数字についても、英語表記とその読み方を日本語（漢字表記）と対応させて示した項目がある。

現在でいえば、ローマ字を習得するための教科書に近く、英語習得のための初歩学習用の往来物資料といえる。従来の往来物の分類においては、語彙科として扱われるものである。ただ、特に近代化のなかで明治以降に増加する、こうした英語学習のための往来物の類は、新たに「外国語科」といった項目を設けて分類することも必要であると思われる。

書名：挿訳英利文典

著者：阿部友之進

形状：縦 18.0cm 横 12.0cm

出版年：慶応3年（1967）

出版地：東京日本橋



この『挿訳英利文典』も『往来物解題辞典 解題編』に記載がない、貴重な英語関係の往来物である。「THE ELEMENTARY CATECHISMS 最初の問答書」、「ENGLISH 英吉利 GRAMMAR 文典」とあり、英語の初歩的段階の文法書といった体裁をなしている。

また「YEDO 1866」「FIFTH EDITION 第五ノ出版」とあることから、「江戸」での出版で版を重ねていることも知られる。

こうした英語関係の文献の存在は、岩手県立図書館所蔵の往来物のひとつの大きな特徴といえる。岩手は、盛岡洋学校があり、そうした教育環境と密接に関係しているものと思われ、大変興味深く、貴重な往来物資料のひとつといえるであろう。

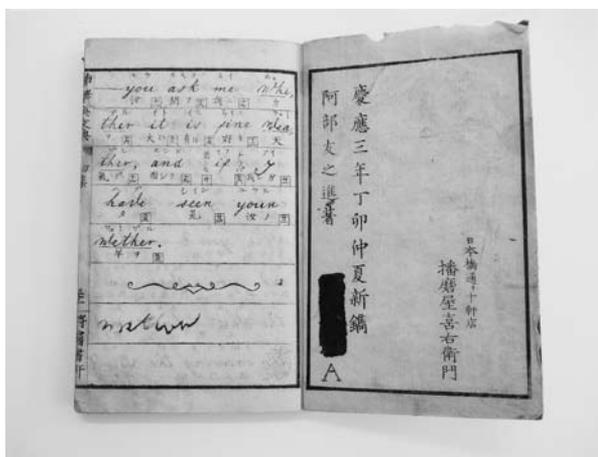
書名：商売往来絵抄

著者：不明

形状：縦 27.0cm 横 16.0cm

出版年：宝暦4年（1754）

出版地：大坂





『農家手習い状』『農事往来』『百姓往来』『百姓用向』『農民籠建往来』『百姓身持特訓』『農民勸孝記』などの存在が確認された。弘前市立図書館では、産業科往来は5本所蔵されていたが、『百姓往来』『商売往来』『諸職往来』といったものであり、特にどの職種のものが多いという傾向が見られるわけではなかった。

一方、岩手県立図書館では、近世期の版本ではないにしても、農学の往来物が多数、所蔵されていた。つまり、写本とはいえ、この地域でこうした往来物が使用されていた可能性が高いことが推測でき、分類整理の中から知られる地域性の表出の一例と考えることができるかもしれない。

書名：近道子宝

著者：不明

形状：縦 24.0cm 横 17.0cm

出版年：表紙に「安政」、表紙裏に「文久」

出版地：盛岡



『商売往来絵抄』は、当時、流布していた『商売往来』に頭書で絵を施したものといわれており、様々な種類の存在が知られている。大きさはいわゆる大本である。

これは、産業科往来に分類できるもので、岩手県立図書館所蔵の往来物のうち、唯一の大坂出版の往来物である。弘前市立図書館には、京都や大坂といった関西圏で出版された往来物が多く所蔵されていたが、岩手県立図書館には、この1本のみであり、商業都市であった大坂の往来物がここにも所蔵が確認できたことは貴重である。

産業科往来は、農、工、商の身分において、またそれぞれの職業において、必要な文字の習得のために作成されたものである。岩手県立図書館には、版本としてはこの『商売往来絵抄』だけであったが、写本では特に「農学」に関する往来物が多いことが特徴といえるようである。





この『近道子宝』は、訓科往来に分類できるものであり、手習い初学者に必要な衣食住、職業などの基本語彙に加えて、心得をつづったものである。『近道子宝』の書名では、関西に出版例がなく、主として東日本で普及したことが特徴とされている。江戸・仙台の出版のものは知られているが、盛岡の舞田屋という地方で出版されたものは大変珍しく、『往来物解題辞典 解題編』『往来物解題辞典 図版編』にも記載が見られない。

従来、知られている板種のものとの関係性などが課題であるが、盛岡という地域で作成されていた『近道子宝』の存在が確認できるものであり、貴重な資料といえるであろう。

書名：奥道中歌

著者：不明

形状：縦 17.0cm 横 12.5cm

出版年：文政2年（1819）

出版地：仙台



『奥道中歌』は、地理科往来に分類できるものである。大きさはいわゆる中本である。仙台国分町より北海道松前に至る道中の駅名を詠み込んだ往来物である。交通路を編んだ往来物は、他にも多いが、京都や江戸といった都市を目指すものがほとんどであり、地方に向かうものとして珍しいものといえる。

3-2 そのほかの文献資料について

近代明治期に刊行されたもので、たとえば、地理科往来として分類できるもので、地方性のうかがえる興味深い文献資料に次のようなものがあった。

『三陸地誌略』岩手師範学校編 明治10年刊（上中下）

『小学岩手県地理書』大光寺忠観編 明治21年刊

『地学初歩』コルネル著、盛岡洋学校社中刊（上下）

「三陸」「岩手県」といった地域性に富んだ教科書が存在したことが注目され、当時の教育姿勢の一端が伺いみえて興味深い。

『地学初歩』は「高田義甫作」のものが、謙堂文庫や東京書籍株式会社付設教科書図書館東書文庫に所蔵²⁾がある。同じ『地学初歩』という題名であるが、コルネル著作とは全く別のものである。コルネル著作は、すべて英語で記されたものであり、これも、英語で記された地理の教科書という点で非常に貴重な資料である。しかも、盛岡洋学校で刊行されている点が注目され、今後、詳細に研究すべき資料のひとつと思われる。



近世期や版本と限定せず、岩手県立図書館に所蔵された往来物資料を目的別の分類にして、少し紹介しておく。教訓科往来では『実語教微解』、語彙科往来では『俗言集』、消息科往来では『仙台状』『日用書札』、地理科往来では『奥州往来』『自遣往来』、産業科往来では『船方往来』『質物手形』『農事往来』、女子用往来では『女の守草』『女文章』などが確認された。

4. おわりに

弘前市立図書館所蔵の往来物は、出版地別にみると、江戸が約79.2%、京都が約10.2%、大坂が約8.1%、仙台が約2.5%であった。江戸が多いとはいえ、関西圏からの流入も多いことが確認された。

今回の岩手県立図書館所蔵の往来物は、調査対象となるべき近世期の版本そのものの所蔵が6本と少なく、異種としては『英学七ツいろは』『挿訳英利文典』『商売往来絵抄』『近道子宝』『奥道中歌』の5本にすぎなかった。出版地別にみると、東京2、大坂1、盛岡1、仙台1という結果であった。しかし、この5本は前述したように少ないながらも、貴重な文献資料であることが判明したのである。

往来物の目的別分類では、これら5本は、語彙科3、産業科1、地理科1となる。しかし、版本や近世といった限定をはずせば、他にも多くの資料の存在を確認できた。

東北地方とひとくくりにされることが多いが、決して一様ではなく、北東北と限定して考えても、それぞれの地域特性があるらしいことが予想されるであろう。往来物資料の調査を通して、文化的背景や教育環境について、また、注目すべき往来物の資料的価値や内容面からの考察検討など、今後も残された課題について研究を続けたいと思う。

注

- 1) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書 別巻 往来物の研究 第1輯』、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)等参照。
- 2) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 3) 石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)参照。
- 4) 石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 図版編』(大空社、2001年)参照。

付記

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、岩手県立図書館の関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

本研究は、文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C)課題番号19520382)の助成を受けた研究成果の一部である。

(2008. 7. 16受理)